JAPANFOUNDATION 国際交流基金

東京国際映画祭 TOKYO INTERNATIONAL FILM FESTIVAL 2018

報道関係各位　　2018年9月6日

プレスリリース　　No. 2018-016-1/3

国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭
『アジア三面鏡 2018：Journey』予告編＆ポスタービジュアル解禁

国際交流基金アジアセンターと東京国際映画祭（Tokyo International Film Festival：以下、TIFF）による映画交流事業、アジア・オムニバス映画製作シリーズ「アジア三面鏡」第２弾、**『アジア三面鏡 2018：Journey』**の予告編映像とポスタービジュアルが完成しました。

アジアの気鋭監督３名が、ひとつのテーマのもとにオムニバス映画を共同製作するプロジェクト「アジア三面鏡」。第２弾作品では、**松永大司監督（日本）、デグナー監督（中国）、エドウィン監督（インドネシア）**の３名が参加しました。「旅」を共通のテーマとして若手監督らしい瑞々しい感性で制作され、アジアを旅する人々を通じ、未来への希望を感じさせる３作品になりました。

ミャンマー・ヤンゴン市内の鉄道整備事業に携わる日本人男性と現地の人々との交流を色鮮やかな映像で描く『碧朱』。中国・北京から海を目指し、全く性格の違う母娘が旅するロードムービー『海』。インドネシア人夫婦が体験する、旅先・東京での不思議な男との出会いを描く『第三の変数』。それぞれの「旅」を通して、アジアの今が描かれています。

本作の音楽を担当するのは、ホウ・シャオシェンやジャ・ジャンクー作品の音楽で知られ、『黒衣の刺客』での第 68 回カンヌ国際映画祭カンヌ・サウンドトラック賞受賞が記憶に新しい、**リン・チャン（林強）**氏。『海』、『碧朱』の二篇と、オムニバス作品全体の音楽を担当しました。

©2018 The Japan Foundation, All Rights Reserved.

松永監督作品『碧朱』（へきしゅ）　主演　長谷川博己さん　公開に寄せてのコメント

いろいろな言語が飛び交う撮影現場でしたが、なぜか言葉の壁を感じるという感覚がなく、ミャンマーの方と一緒に芝居をしていても、相手の言うことがわかるのが不思議な現場でした。撮影場所は生命力を感じる素晴らしい光景ばかりで、発展途上のこの原風景を残しておきたいという気持ちもあり、どう変わって行くのか楽しみでもあり、その気持ちの揺れが自分の役につながりシンクロして演じられたのではないかと思います。新しい発見があるとても刺激的な現場でした。

記

【事業名】　国際交流基金アジアセンター×東京国際映画祭co-produceアジア・オムニバス映画製作シリーズ「アジア三面鏡」

【主 催】　国際交流基金アジアセンター、ユニジャパン（東京国際映画祭）

【作品概要】『アジア三面鏡 2018：Journey』

「海」監督：デグナー　/　キャスト：チェン・ジン、ゴン・チェ

「碧朱」監督：松永大司　/　キャスト：長谷川博己、ナンダーミャッアウン

「第三の変数」監督：エドウィン　/　キャスト：ニコラス・サプットゥラ、アグニ・プラティスタ、オカ・アンタラ

【公開日】　**第31回東京国際映画祭にて　10/26（金）ワールドプレミア上映**

11月9日(金)～11月15日(木)　一週間限定公開（東京・新宿ピカデリー、大阪・なんばパークスシネマ、名古屋・ミッドランドスクエアシネマ）

【公式サイト】http://asian3mirror.jfac.jp/2018_journey

取材に関するお問い合わせ：　国際交流基金　コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp
本事業に関するお問い合わせ：　国際交流基金　アジアセンター文化事業第１チーム（担当：掛谷、村田）
Tel: 03-5369-6140

No. 2018-016-2/3

『アジア三面鏡 2018：Journey』 作品概要

■松永大司監督作品 『碧朱』（へきしゅ）

『碧朱』

舞台はミャンマー。主人公はヤンゴン市内の鉄道整備事業に携わる日本人・商社マン。民主化して間もない街の進化と喪失、現地の人々との交流、彼が抱いた心の機微を色彩豊かな映像で描き出しています。主演は今最も勢いのある俳優、長谷川博己。静かで力強い演技に新しい魅力を感じます。ヒロインは監督が現地で発掘した現役大学生の新人、ナンダーミャッアウン。

■デグナー監督作品 『海』

『海』

中国・北京から海を目指し、全く性格の違う母娘が旅するロードムービー。徐々に旅の目的が分かってくる展開に最後は涙すること必至。喧嘩しながら旅を続ける母娘を通して、普遍的な親子の問題、現代中国特有の人間模様が浮き彫りに。デグナー監督自身の経験や境遇が大きく反映された渾身の物語。主演は高い演技力に定評のあるベテラン女優チェン・ジンと実力派若手女優ゴン・チェ。

■エドウィン監督作品 『第三の変数』

『第三の変数』

インドネシア人夫婦が旅先の東京で出会う不思議な男性。民泊を営む傍、コンサルタントを自称する男から奇妙で官能的なアドバイスを受ける夫婦。シュールレアリストとして知られるエドウィン監督が独特な切り口で描く物語。主演を務めるのは、3 作品共通キャストでもあるインドネシアの国民的俳優ニコラス・サプットゥラ、インドネシアの人気女優アグニ・プラティスタ、日本・インドネシア合作映画『KILLERS／キラーズ』で北村一輝との共演経験もある実力派俳優オカ・アンタラ。

■音楽：リン・チャン（林強）

ミュージシャン、歌手、作詞家、DJ、作曲家。28 年の創作活動の間、様々な分野のアーティストと関わり、国際的な音楽活動を行ってきた。近年は主に映画とドキュメンタリーの音楽を手掛けている。

主な作品（作曲）
憂鬱な楽園（1996 年　監督：ホウ・シャオシェン）　第 33 回金馬奨オリジナル映画音楽最優秀賞
ミレニアム・マンボ（2001 年　監督：ホウ・シャオシェン）　第 38 回金馬奨オリジナル映画音楽最優秀賞
世界（2004 年　監督：ジャ・ジャンクー）
長江哀歌（2006 年　監督：ジャ・ジャンクー）
四川のうた（2008 年　監督：ジャ・ジャンクー）
黒衣の刺客（2015 年　監督：ホウ・シャオシェン）　第 68 回カンヌ国際映画祭 カンヌ・サウンドトラック賞

予告編映像とポスタービジュアルのダウンロードはこちら
→ http://www.image.net/tiff2018_press_release_0906_jp

取材に関するお問い合わせ： 国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp
本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 アジアセンター文化事業第 1 チーム（担当：掛谷、村田）
Tel: 03-5369-6140

アジア・オムニバス映画製作シリーズ 『アジア三面鏡』とは

日本を含むアジアの監督３名が、ひとつのテーマのもとにオムニバス映画を共同製作するプロジェクト。アジアに生きる人々を独自の視点から描くことで、それぞれの国の社会や文化を三面鏡のように映し出し、アジアに生きる隣人としてお互いがお互いを知り、理解し、共感し、アジア人としてのアイデンティティや生き方を模索する契機になることを目指します。３名の監督は、他のアジアの国と何らかの形でつながりを持つ人々を登場させること、撮影はアジアの国で行うこと以外は自由に、それぞれのスタイルで、テーマに沿った作品を仕上げます。

◆シリーズ第１弾『アジア三面鏡 2016：リフレクションズ』

監督：ブリランテ・メンドーサ（フィリピン）、行定勲（日本）、ソト・クォーリーカー（カンボジア）

2018 年 10 月 12 日（金）～10 月 18 日(木)　一週間限定公開

東京・新宿ピカデリー、大阪・なんばパークスシネマ、名古屋・ミッドランドスクエアシネマにて

公式サイト：http://asian3mirror.jfac.jp/2016_reflections

第 31 回東京国際映画祭　開催概要

【開 催 期 間】　2018 年 10 月 25 日（木）～11 月 3 日（土・祝）
【 会 場 】六本木ヒルズ、EX シアター六本木（港区）ほか
【公式サイト】 http://www.tiff-jp.net

＜東京国際映画祭のご取材には、必ずプレスパス登録が必要となります＞

プレスパス登録はコチラから⇒http://2018.tiff-jp.net/ja/press/

【プレスパスに関する問い合わせ】東京国際映画祭事務局　プロモーショングループ　03-6226-3012

以上

取材に関するお問い合わせ：　国際交流基金　コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp
本事業に関するお問い合わせ：　国際交流基金　アジアセンター文化事業第１チーム（担当：掛谷、村田）
Tel: 03-5369-6140